

上田高等学校 関西同窓会報

第60号

2025年(令和7年)

1月17日(金曜日)

編集発行

上田高等学校関西同窓会

第34回総会 リモートなし一堂に会し開催



第34回総会が例年通り9月の第1土曜日の7日に開催されました。今回は、新型コロナウイルス以前の対面形式のみでの開催です。

上田高校宮下美和校長、阿部力教頭、同窓会本部金子元昭理事長、関東同窓会矢島基美会長、中南信支部武村洋治顧問のご来賓の方々にご臨席いただき、総勢30名の参加となりました。総会の議長は70期佐藤則一氏にお願いし、すべてご承認いただきましたのでご報告いたします。

第2部の講演は、元上田高校校長、前長野県教育長の内堀繁利様(74期)に「長野県教育の「今」と「これから」」の演題で講演いただきました。教育に対する熱い思いをもって、今後の長野県教育はどうあるべきか語っていただきました。教育は日本、世界の将来を左右する根幹だと思います。ご多忙の中、遠路お越しいただき、ご講演ありがとうございました。(詳細は2ページに掲載)

第3部は懇親会です。48期から84期までの同窓生の久しぶりの再会を楽しみました。ご来賓の祝辞や、母校の活躍を伺い、おいしい食事とお酒をいただきながらの歓談は、2時間半の時間が足りないほどでした。最後に全員で校歌を斉唱し、再会を約してお開きとなりました。今年の第35回総会は9月第2週の13日開催予定です。多数のご参加をお待ちしております。

講演会

長野県教育の「今」と「これから」

信州大学教育学部特任教授（前長野県教育委員会教育長）内堀繁利

【はじめに】

校長として平成28年の本総会に出席した際、自分も含め、全員で六文銭入りの赤Tシャツを着たのは懐かしい思い出だ。同年のNHK大河ドラマ『真田丸』の放映により、上田高校は何度もメディアで取り上げられ、SGH（スーパーグローバルハイスクール）の先駆的取組と相まって、その名が全国に知られることとなった。

はじめに

2016.9.3
関西同窓会総会

3

【長野県教育の「今」につながる取組と「今」】

グローバル化の進展、加速する少子高齢化、地球温暖化による異常気象、AIの発達や人生100年時代の到来など、我々は、VUCA（変動・不確実・複雑・曖昧）と言われる時代、人類が経験したことのない社会を生きている。

このような時代や社会にあっては、混沌とした状況の中から課題や問いを設定する力、未知の状況でも、自ら考え、判断し、行動する姿勢など、「新たな社会を創造する力」が不可欠であり、教育改革が声高に謳われるようになった。

上田高校は、平成26年度に「アソシエイト」、27年度から5年間は文部科学省のSGHの指定を受け、普通科では行われていなかった「探究」、大学や研究機関等と連携したフィールドワーク、海外研修、国内外の高校生などとの協働的な学びなどに取り組み、他県からも多数の視察があるなど、新しい時代の新しい高校モデルとなった。

これらの取組は、その後の、「新たな学び」と「新たな学校づくり」を一体的に推進するとした平成30年策定の県教委「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」や、同じく平成30年改訂の現行高校学習指導要領、令和3年の中央教育審議会『「令和の日本型教育」の構築を目指して』（答申）など、県や国が目指す方向性とも軌を一にしている。

上田高校の指定から10年が経過し、今では、長野県内のどの高校も、上述のような理念や実践に学び、取り入れながら学校改革を進めている。だが、その進み具合は高校ごと、教員ごとにグラデーションがある状態である。

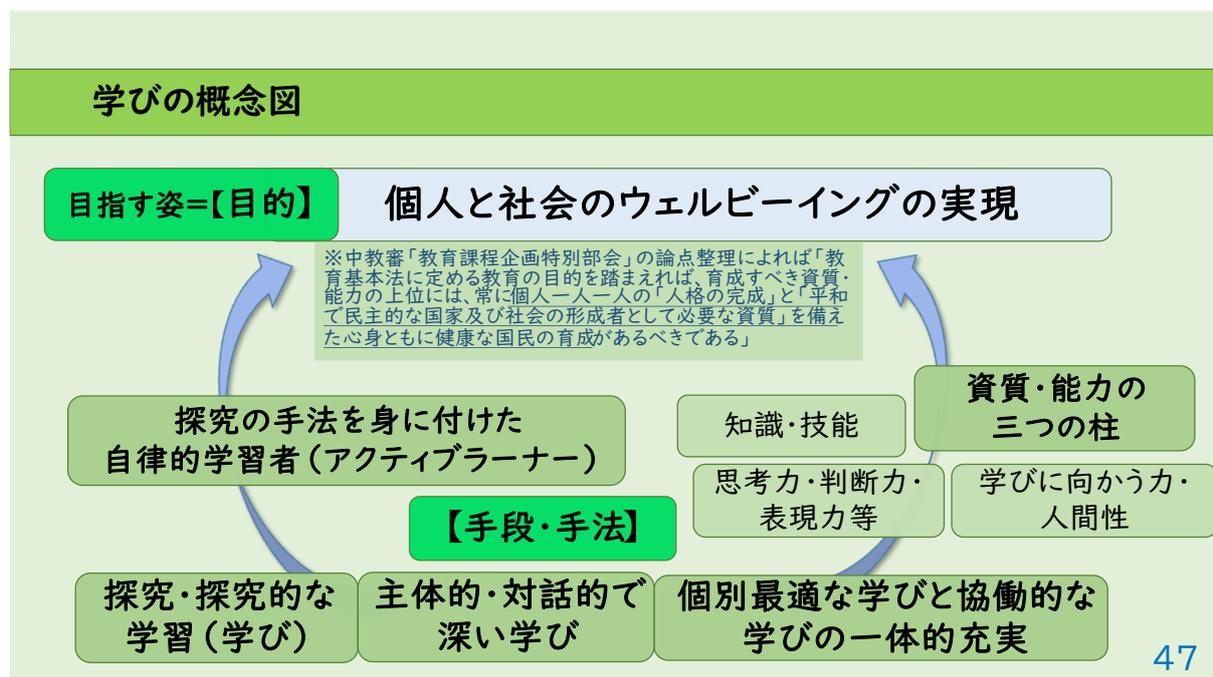
【長野県教育の「これから」～期待も込めて】

長野県では、令和5年度から5年間を計画期間とする「第4次長野県教育振興基本計画」を策定し、目指す姿を「個人と社会のウェルビーイングの実現～一人ひとりの「好き」や「楽しい」、「なぜ」をとことん追求できる『探究県』長野の学び」とした（「ウェルビーイング」とは、身体的、精神的、社会的に良い状態にあることを意味する）。

また、現在実施されている学習指導要領等では、これからの時代に必要な、育成すべき「資質・能力の3つの柱」や「探究」、「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」、あるいは「探究の手法を身に付けた自律的学習者（アクティブラーナー）」として生涯に渡って学び続けることなどを重視しているが、これらは学校教育の目的としてではなく、「個人と社会のウェルビーイングの実現」という、教育（学び）の最上位の目的を達成するための手段・手法として位置づけることが大事だと考える。

学びの改革を進めていくためには、そのベースとなる「子ども観・人間観」「学び観」「教員観」「学校観」といった「観」（見方・考え方）を共有することが必要だ。例えば、「人は生まれながらにして学ぶ意欲や探究心・好奇心を持った存在」とする「人間観」や、「生来持っている能力を自分に合ったペース・方法で伸ばすことが学び」という「学び観」などである。

これからの学校は、このような「観」に基づき、一人ひとり異なる特性や個性を持った存在である子どもたちが、その違いや自分の興味関心に応じて学ぶことができる場所、自分らしさを保ちながら、協働的に学んだり活動したりできる、多様性を包摂した場所でなければならない。この方向に向かって改革を一つ一つ積み重ねることにより、学校は、これまでの「行かなければならない場所」から、今強く求められている、安心して学べる、居心地のよい「行きたい場所」へと転換することができると考えている。



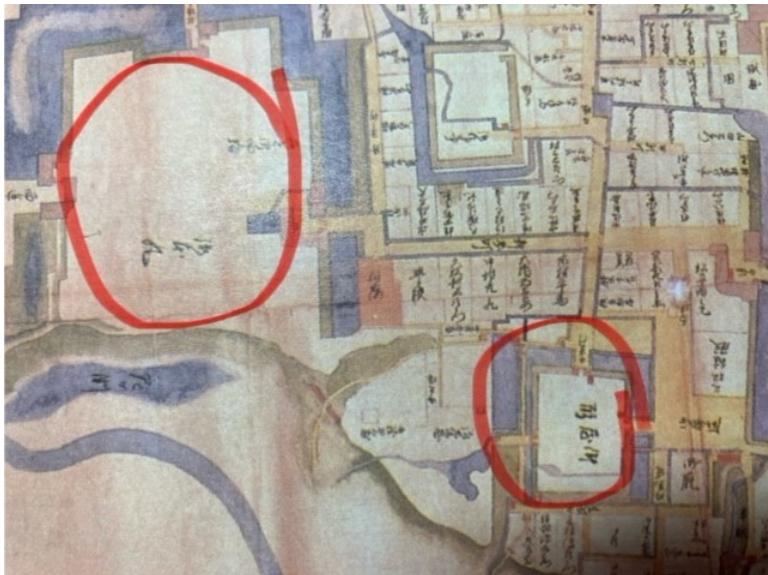
上田高校 NOW

ごあいさつ

校長 宮下美和

関西同窓会の皆様には、平素より本校の教育活動に多大なるご支援を賜り、感謝と御礼を申し上げます。9月7日の総会には、教頭ともどもお招きにあずかり、多くの皆様と直接お話をさせていただき、大変有意義な時間を過ごさせていただいたこと、改めて感謝申し上げます。昨年来お願いしております、海外研修支援募金にも多くのご協力をいただいています。ありがとうございます。

さて、以前、地理の先生に授業で使い古い地図を見せていただいたことがあります。学校周辺の地図で、江戸時代の弘化4年(1847年)のものだそうです。上田高校のところには「御屋敷」と書かれています。その地図から、上田高校、市役所、二中、陸上競技場、サッカーグラウンドなどおなじみの場所を探すワークシートになっています。勝手知ったる上田の街中なので、大体の場所は何となくわかるのですが、「え、こんなところに水路があるんだ」などの意外な発見もあります。そういえば前にブラタモリが上田に来たとき「暗渠」が話題になっていました。



そして、学校周辺の道は、必ず折れ曲がっています。4月当初に学校の周りをぶらぶら歩いて特徴を探す活動をしていた地理の授業でも道がすぐに曲がることは話題になっていました。「鍵型路」というそうで、敵の侵入を阻む城下町特有の仕様です。そういえば、数年前、ゴールデンウィーク中に行われる「真田まつり」で御屋形様こと草刈正雄さんが市内をパレードしたことがありました。その日、たまたま学校に

用があって、いつものように学校に向かったのですが、学校に向かう道がすべて通行止めになっていて、結局たどりつけないことがありました。まさに鉄壁の守りの上田城を感じました。

そして、この古地図を見る授業は、藩主屋敷(上田高校)は上田城の外にあって、お城に迫ってくる敵を側面から攻撃する役目を持っていたんだよという話につながっていきます。つまり、真田丸と大阪城の配置と同じ。ちょっと胸が熱くなってしびれる授業でした。

上田高校生はお城を守りつつ元気にすごしています。引き続き応援いただければ幸いです。

最近の上田高校の話題

同窓会係 土屋 章子

落ち葉の舞い散る季節になり、先日の全校清掃の折にみんなで落ち葉を片づけました。

文化祭も新型コロナウイルスに対する制限が全面的に解除され、一般公開2日間の来校者は4400人余りとなりました。「昇華～Re ; BIRTH～」のテーマのもと生徒たちは短期間に集中して取り組み、松尾祭を無事に創り上げることができました。

班活動も盛んで運動班では卓球班、柔道班、水泳班が北信越大会に、陸上班が東海大会に出場しました。文化班では化学班、室内楽班、美術班、文芸班、放送班、棋道班が第48回全国総文祭(ぎふ総文)に出場しました。またクイズ班、ダンス班、現代音楽班が全国大会に出場しています。班ではありませんがエアロビックス世界大会ジュニアトリオ部門で小原理子さんが優勝し、アーチェリーでも北信越大会に出場した生徒もいます。また定時制でも全国高等学校定時制バトミントン大会に出場しました。

代替わりした新人大会においても陸上班、弓道班が北信越大会に出場し、現代音楽班、室内音楽班が全国大会に出場することになっています。多くの生徒が勉強に班活動にと忙しい毎日を送りながら頑張っています。

SDGsの視点から社会に生じている様々な課題に気づき、その解決に向けて課題研究に1,2年が取り組み、様々な場面で発表をしています。2学年の研修旅行も11月末に台湾に行くことになっており、台湾の高校生や大学生との交流、課題別のフィールドワークなどを通して国際感覚を養いつつ楽しい思い出ができればと思います。今年度末には希望者によるマレーシアアカデミックスタディツアー、カンボジア井戸プロジェクトなども計画されています。様々な企画を通して多くの生徒がいきいきと活躍できる場ができればと願っています。



カンボジア井戸プロジェクト



ボストンスタディツアー



文化祭合唱コンクール



山岳班

新年のご挨拶

会長 荻原 靖 (74期)



新年おめでとうございます

関西同窓会会員の皆様には、お健やかに新たな年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、少子化・高齢化が社会的課題になって久しいですが、世間では人材不足がますます深刻になり、これまで受けていたサービスが縮小され享受できなくなるなどという事態も生じています。かつてのような「右肩上がり」の

社会生活から脱皮し、あらたな社会観を生み出すことが求められています。

また同窓会組織も、維持継続に有効な手を打たねばなりません。昨年の本部同窓会会員大会では、本部が中心になって各支部・各地域同窓会で結束して打開策を検討してほしいと要望してまいりました。

本年も皆様のお力添えの元、取り組みを進めてまいりますので、お力添えのほどよろしくお願ひ申し上げます。

上田高校関西同窓会令和5年度 活動報告

(令和5年9月1日～令和6年8月31日)

令和5年

9月2日(土) 第33回関西同窓会総会・講演会を開催 参加者30名
会 場 大阪コロナホテル (ZOOMによるオンライン会議併用)
講演会「赤血球による酸素輸送と人工赤血球の役割」
講 師：奈良県立医科大学教授 酒井宏水氏

10月21日(土) 第40回文化交流会 参加者8名
秋の南禅寺、蹴上インクラインなど散策と異文化交流を学んだ

上田高校同窓会会員大会 令和5年10月28日 参加者無し

関東同窓会総会 令和6年6月29日 荻原会長参加

中南信支部総会 令和5年7月1日 武舎文化委員長参加

令和6年

1月17日(水) 関西同窓会報第58号発行
会報を電子化しメールのある会員にPDFファイルを送信した。メールのない会員および紙の会報を希望する会員には印刷した会報を送付した。
本部および他支部には、PDFファイルを送信した。

1月28日(日) 第1回役員会。出席者8名。

場 所：大阪市立住宅情報センター

2月25日(日) 第16回文化サロン 参加者10名
テーマ：「中国の台頭と米中競合（覇権競争）論を考える」

講 師：竹内俊隆氏 関西同窓会監事

場 所：ホテル・アウイーナ大阪 207号室

5月11日(土) 臨時役員会。出席者6名。(ZOOMによるオンライン開催)

6月30日(日) 第2回役員会。出席者6名。(ZOOMによるオンライン開催)

7月17日(金) 関西同窓会報第59号発行

発行部数は500部(関西同窓会会員420部、事務局用80部)

本部・関東同窓会・北海道同窓会・各支部へはPDFファイルを送付

QRコードによる第34回総会への申し込みを併用した。

9月1日(日) 第3回役員会。出席者5名。(場所:大阪コロナホテル)

上田高校関西同窓会令和6年度 活動計画

(令和6年9月1日～令和7年8月31日)

- ① 令和6年9月7日(土) 第34回総会・講演会・懇親会を開催 参加者:30名
会場 大阪コロナホテル
講演 長野県教育の「今」と「これから」
講師 内堀繁利氏 前・長野県教育長
- ② 広報委員会編集による関西同窓会報を年2回(1月17日、7月17日)発行する。
1月号については、PDFファイル(ワード)を作成し、メールのある会員に送付する。
紙の会報を希望する会員には印刷した会報を送付する。(編集会議にて企画)
- ③ 文化委員会主催による文化事業を年2回開催し、会員相互の交流を促進する。
 - ・ 第41回文化交流会 令和6年10月12日(土) 参加者:9名
弘法大師空海ゆかりの京都東寺と真言宗醍醐派総本山醍醐寺を訪問し、真言仏教の世界に心を寄せた。
 - ・ 第17回文化サロン 令和7年2月1日(土)
テーマ:ふるさと、国を興した人々
講師:関口貞雄氏 48期
場所:ホテル・アウイーナ大阪
- ④ 上田高校同窓会本部会員大会をはじめ、関東同窓会総会、中南信支部総会などに代表が出席し、交流を深める。
- ⑤ 母校社会講座への協力
推薦無し
- ⑥ FACEBOOKなどのIT技術により会員交流の場づくりの拡充を行う。
(土屋広報委員長、他)
- ⑦ 上田高等学校の生徒が文化・スポーツなどの分野において、近畿地区で活躍する場合は応援する。

訃報 謹んでお悔やみ申し上げます

金井 淳 様 (54期) 2024年1月27日ご逝去

令和6年度 上田高等学校関西同窓会 予算案

期間(令和6年8月26日～令和7年8月25日)

単位:円

収 入			支 出		
科 目	6年度予算案	5年度実績	科 目	6年度予算案	5年度実績
前期繰越金	805,367	788,959	総会費用	300,000	281,720
総会費収入	143,000	143,000	会報費	180,000	80,148
年会費	150,000	147,000	通信費	10,000	0
特別年会費	30,000	30,000	渉外費	80,000	37,360
雑収入	100,000	130,000	事務費	15,000	8,040
利息収入	0	1	雑費	30,000	26,325
次期総会参加費 前納金	70,000	35,000	予備費	30,000	0
			次期総会参加費 繰越分	70,000	35,000
			次期繰越金	583,367	805,367
合 計	1,298,367	1,273,960	合 計	1,298,367	1,273,960

上田高等学校関西同窓会 令和6年度 役員名簿

会 長	荻原 靖	74期			
副会長	金澤 信男	67期			
幹事長	隅田修一郎	64期			
副幹事長	佐藤 則一	70期	堤 宏記	79期	
会計長	尾崎 忍	76期			
監 事	竹内 俊隆	68期			
顧 問	該当なし				
企画委員会	委員長 尾崎 忍	76期(兼)			
	隅田修一郎	64期	金澤 信男	67期(兼)	上記役員全員
広報委員会	委員長 土屋 俊夫	83期			
文化委員会	委員長 武舎 一夫	73期	隅田修一郎	64期(兼)	
学年幹事	小泉 孝雄	49期	半田 仁志	50期	翠川 健彦
	大瀧 忠長	52期	荒井 正自	53期	清水 克正
	若林 忠之	55期	大野せき子	56期	中嶋 巖
	白井 彰彦	58期	伊倉 邦人	59期	山本 努
	黒岩 屹	62期	丸山 文夫	64期	恩田 隆
	金澤 信男	67期	知野 武文	68期	伊藤 秀一
	中村 智子	72期	武舎 一夫	73期	荻原 靖
	尾崎 忍	76期	戸田 有一	79期	土屋 俊夫
	近江 裕之	85期	高橋 路子	88期	
ふるさと会員	町田 高	73期	矢島 裕章	106期	

文化交流会

弘法大師空海ゆかりの京都東寺と真言宗醍醐派総本山醍醐寺を歩く

10月12日(土)秋の文化交流会が開催され、9名の会員が参加いたしました。

まずは今年生誕1250年を迎える弘法大師ゆかりの東寺を訪れました。東寺は、平安遷都の2年後の796年、平安京の入口である羅生門を挟んで西側に位置する西寺(現存せず)と対を成す形で京都の東を守る国家鎮護の寺として創建されました。東寺は1200年を超える長い歴史の中で、戦乱、火災により伽藍の焼失・再建を何度も繰り返しており、正門の南大門も幕末の混乱の中で火災により消失しました。現在の南大門は、明治時代に入ってから三十三間堂(蓮華王院)の西門を移築したものとされています。この南大門から入場し、まずは金堂を参拝しました。現在の金堂は、関ヶ原の合戦後に再建されたもので、中尊の薬師如来、脇侍の日光・月光菩薩共々桃山時代を代表する作品となっています。金堂参拝後、立体曼荼羅として有名な平安初期を代表する仏像群を収める講堂を訪れました。1486年の火災により、東寺の大伽藍の多くが失われましたが、講堂は消失からわずか5年後に再建されました。講堂に収められていた貴重な仏像の多くが救出され、平安初期の仏像群15体が現在国宝となっています。講堂内部では大日如来を中心とする世界が立体曼荼羅という3D空間となって私達の目の前に現れ、その深遠な世界観に圧倒されます。個々の仏像を見ても憤怒の形相の影に微かに慈愛の表情をも浮かべる不動明王や、イケメンの仏像として女性ファンの多い帝釈天など見飽きることがありません。東寺では、更に宝物館と観智院を訪れ、都ホテル京都内にある和食「うをまん」にて懇親会を行いました。名物の豆乳出汁の美人豆腐と美味しい天麩羅などの豪華な料理をいただきながら、会員の近況などについて歓談し、楽しいひと時を過ごしました。

昼食後は、東寺から南東10キロの場所にある醍醐寺を参拝しました。醍醐寺は、弘法大師の孫弟子理源大師聖宝により874年に醍醐山山頂近く、現在上醍醐と呼ばれる場所に創建されました。その後、醍醐寺の寺勢拡大に伴い山麓の下醍醐に多くの伽藍が建設され、醍醐の花見で有名な三宝院や五重塔は、下醍醐の中心伽藍となっています。まず国宝三宝院を訪問し、1598年に晩年の豊臣秀吉が醍醐の花見に際して自ら基本設計を行った三宝印庭園を表書院から眺めました。三宝院入口前には太閤枝垂れ桜として有名な桜の名木があり、春には多くの人で賑わいます。次に醍醐寺霊宝館を訪れ、上醍醐・下醍醐の伽藍に伝わる貴重な仏像・仏画・仏具等を鑑賞しました。上醍醐五大堂に安置されていた重文五大明王像や上醍醐薬師堂の国宝薬師三尊像は日本を代表する密教美術作品として有名です。その後国宝の金堂と五重塔を参拝しました。醍醐寺五重塔は、951年の完成後、戦乱や火災による被災から免れ、京都市内に残る最古の建築物として、また金堂は、秀吉により和歌山から移築された伽藍ですが、平安末期の様式を残している数少ない建築物として大変貴重なものです。最後に五重塔の前で記念撮影を行い、今回の秋の文化交流会を無事終了しました。



(73期 武舎 一夫)

ふるさと会員だより

「矢島くんはなぜ長野県から大阪大学に来たの？」

大学時代、幾度となく受けた質問だ。大阪大学は関西出身者が約半数、西日本出身者が大多数を占める。その中でもさらに、大阪から交通の便が悪い長野県出身者は稀有な存在だった。

もちろん、“私なりに論理的な理由”は存在する。

「母校の上田高校に届いていた学士会（旧帝国大学の同窓会組織）の会報を見て、学士会員になれる大学に行こうと思ったんだ。学士会に入れば社会人になっても交友関係が広がるかと思って。でも、北海道大や東北大は私が寒がりだから行きたくない。九州大は遠すぎる。東大と京大は高校で履修した以外の科目を一部自力で勉強する必要があるから除外。残ったのが大阪大と名古屋大で…」

これは本当の話。同窓会を理由に大学選びをする人間は珍しいと思うが、私は大真面目。しかしこの話をしても、質問者の反応はだいたい「ふう〜ん」と素っ気ない。そりゃあそうである。この手の質問をする人は知り合って間もない人。そこまで知らない人の進路選択に本気で興味があるわけではない。

ある時から返答を変えた。

「僕は上田高校出身だから、真田幸村の後を追って上田から大阪に来た」

いかにも冗談めいて聞こえるかもしれないが、幸い話は弾む。極めつけに“古城の門”の写真をスマホで見せ「ほら、僕の母校はほぼ上田城なんだよ」と話をすれば完璧なオチとなる。しかし実際、私は真田幸村に詳しいわけでも、特別歴史好きでもなかった。

そんな私が、ひょんな縁で「大坂の陣を大河ドラマにする会」に参加した。当時、大阪の有志が草の根活動を展開していたのだ。2016年の『真田丸』で会の目的は果たされたが、上田出身の私とその一員になったことは、今でも不思議な縁だと思う。「真田幸村の後を追って上田から大阪に来た」理由がそこにあったのだ。

2013年に私は大学を卒業した。社会人となって10年以上が経ったが、“私なりに論理的な理由”であった学士会には未だ入っていない。まあ同窓会は上田高校で充分ですよ。
矢島裕章（106期）

**リレーエッセイ**

阪神淡路大震災と関西同窓会 30年前を振り返って

土屋博（58期）（元）幹事長・企画委員長・震災対策委員長

本稿が掲載される関西同窓会報 第60号は私達の同窓会の30年の歴史を振り返るのに大いなる意味を持っていると思います。

先ず、本号の発行日 2025年1月17日は、あの震災発生日から丁度30年目に当たります。発刊第1号は、「阪神淡路大震災特集号」でした。この日を忘れないように、発行日を毎年1月17日と半年後の7月17日と決め【年2回×30年=60号】になったわけです。あの、驚天動地・震度7の

激震を身をもって体験したその一瞬から、近畿一带に生活拠点を置いていた人達全員が生きる事の原点に揺戻されました。大切な人、愛しい人を亡くしたり、大切な物を失ったり、色々な悲しみや苦しみの混乱の中、被害に遭われた方々が周りの人達と立場を超えて励まし合い協力し合って日々懸命に生きようとしていた姿は忘れられません。

当時の同窓会はまだ本部の声かけで立ち上がって数年の揺籃期でそれ程積極的な活動は出来ていなかったと思います。そんな中でのあの震災、数々の被害状況を目の当たりにして、私も「何とか早く現地に行って何かお手伝いをしたい！」との思いが強かったのですが、ライフラインは寸断され交通事情もままならない状況で動くに動けない日が続きました。同窓会としても、居ても立ってもいられない思いを抑えられず当時の支部長・吉池さんと相談「兎に角お互い出来ることをやろう！」と震災対策委員会を立ち上げました。

先ず支部3役・学年幹事の皆さんの協力を得て、全てが混乱の中、該当地域の全会員に電話をかけ、安否・被害状況の確認を急いだ結果、幸い人的被害は無かったものの家屋の倒壊など様々な被害が判明した為、直ちに義援金の募集活動を開始。本部をはじめ(2団体と136件)1,904,588円のご協力を頂き、全壊・半壊、一部損壊、計13件の会員に直接訪問の上お見舞い金をお届けすることが出来ました。(詳細は対策委員会報告に記載)



被災会員の方々の感激は大きかったのでしょうか、相次いで感謝と復興への決意メッセージや体験記が送られてきました。その内容が大変生々しく、被災の惨状や恐怖の思いの一方、周りの人達の優しさ温かさへの感謝の気持ちがとても強く表わされている物ばかりで胸を打たれました。その中には後に当関西同窓会の第5代会長になり様々なご活躍をされた竹内俊隆さん(68期)の寄稿も有り、若しかしたらこの事が同窓会に関心を持って頂くきっかけのひとつだったのではないかと考えています。

これらを拝見して内容の凄さに驚き、文章を寄せていただいた方々の気持ちを何とかきちんと纏め、記録集として出来るだけの物にしたいと懸命に努力をしてくれたのが私と同じ58期で広報委員長の佐藤崇雄さんでした。ご自身が報道機関に勤務し、震災報道の激務の真っ只中で家にも帰れない日が続く状況の中、見事に取りまとめ立派な誌面に編集し発刊に漕ぎ着けてくれました(写真は土屋撮影分提供)。残念ながら一昨年末故人となられ寂しい限り、改めて感謝の念をお伝えしご冥福をお祈りします。

この取り組みがきっかけとなり各会員の同窓会への関心が非常に強くなり、回を追う毎に相互の交流が深まって絆が生まれその後の同窓会の発展の起爆剤になったことは確かだと思います。その意味でこの第1号が果たした意義は大変大きな物であったと言えます。

☆ ☆ ☆

83歳になる今、振り返れば色々な出来事が積み重なって今の自分がある。数多い人達との運命的な出会い、後数年で定年となる勤務先の自主廃業やその後の新展開、がん摘出、心臓手術も乗り越え何とか生き抜いてこれたのは、すべて支えて頂いた周りの方々のお陰が有ってこそと感謝しています。



常に物事を前向きに捉え、日々健康的に過ごすことがよりよい生き様(よりよい死に様)に繋がると
思い、週数日のアルバイトやほんの少しの家事手伝い以外は趣味の乗馬にうつつを抜かし、クラブ
に行つて馬に乗ったり、競技会の審判や若い馬の調教の手伝いなどをして楽しんでいます。

「馬上少年過ぐ 世平らかにして白髪多し 残軀天の所赦(赦すところ) 不楽(楽しまざれば) 是如何に」 (伊達政宗)

令和6年文化サロン

令和6年度 第17回上田高校関西同窓会文化サロンのご案内

「ふるさと、国を興した人々」

上田高校関西同窓会の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。令和6年度の文化サロンにつきましては、上田高校関西同窓会会員の関口貞雄様(48期)をお招きしまして、幕末・明治維新から太平洋戦争に至る激動の時代に活躍した故郷上田にゆかりのある人々について、ご講演いただきます。お話しいただきますのは、「新時代の扉を開いた活文禅師」、「開国を唱え、養蚕、絹織物を奨励した松平忠優(忠固)」、「上田公園を拓いた丸山平八郎と勝俣英吉郎(変則中学校)」、「蚕都上田市を築いた三吉米熊」、「福沢諭吉のルーツは塩田城」、「満蒙を築き、対米英開戦に反対し追放された金井章次(4期)」、「公衆衛生の父勝俣稔(8期)」です。

私達上田高校同窓生にとりまして大変興味深いお話をお聞きする大変貴重な機会ですので、奮ってご参加くださりますようお願い申し上げます。

【日時】2025年2月1日(土) 午後1時～4時

【場所】ホテル・アウイーナ大阪 207号室

〒543-0031 大阪府大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12

＜アクセス＞ 大阪上本町駅から徒歩3分・地下鉄谷町9丁目駅から徒歩8分

【講師】関口貞雄(関西同窓会監事48期)

【会費】1,000円

【申込先】〒635-0013

奈良県大和高田市昭和町8-11-226

武舎 一夫

email: pretrejean@nifty.com

電話: 090-9851-5778

